

## 264) 秋の砂浜

秋の浜辺に貝殻ひとつ かいがら 砂にまみれて海を見ている  
愛に疲れたわたしのように 海の響をなつかしんでる  
恋の苦しみ愛の苦しみ 貝はなんにも言わないけれど  
海の底には私の知らない うずしお 愛の渦潮流れてるはず

指の間にこぼれる砂は つかみそこねた愛のようだわ  
あの人のこと好きだったけど 大人の愛は似合わないから  
実らぬ恋は砂にうずめて 新しい人さがそうかしら  
砂に残した私の足跡 波がきれいに消してしまった

浜辺の砂は伝言板ね いろんな言葉残されている  
つがい千鳥の足跡見ると 愛という字に読めてくるのよ  
なぎさ 渚に愛を刻んで生きる そんな人生とても素敵ね  
砂に願いを記したならば どんな出逢いが待ってるかしら

寄せる波間のリズムに合わせ 渚づたいに素足で歩く  
大きな波につかまりそうよ ジーンズ少しまろうかしら  
わたしのことをさらってくれる 波に逢えたら旅は終わりね  
波に抱かれて夢を見るのよ 遊び疲れた子供のように

大きな波にいつか逢いたい 波に抱かれて夢を追いたい  
くじゅうくりはま 九十九里浜南に行けば 風は気まぐれ海鳴りばかり